

歴史と伝統文化を継承する

山部文化協会



▲山部文化協会創立70周年記念式典会場で舞を披露する山部獅子舞保存会



▲山部ふれあいまつり前夜祭で演奏を披露するホリデー・アンサンブル



▲山部フォークダンスサークル



▲富良野梅清会

山部地域の伝統文化を継承する10団体1個人が加盟し、さまざまな活動を展開している山部文化協会（島強会長）。昭和21年に終戦混乱期の中、住民有志が山部文化連盟を立ち上げ、昭和50年から現在の山部文化協会に改称。平成28年10月8日には、山部福祉センターで創立70周年記念式典が盛大に開催され、これまで引き継がれてきた伝統文化の歴史を関係者とともに振り返りました。「私も長

い間活動してきましたが、何もないところから組織を立ち上げ活動してきた昭和初期の人たちの苦勞などを改めて感じます」と島会長は話します。

協会の主な活動は、年に1度の文化祭における芸能発表や作品展のほか、イベントへの参加や自然などを見たりふれたりする「自然に親しむ会」を開催し、太陽の里をはじめ、過去には旭川市の美術館などにも足を運び交流を深めています。また、協会が主催している歌謡・民謡祭りは、過去に地域住民が職場や団体で参加し、紅白歌合戦のような祭りを繰り上げ、当時会場となった山部小学校の体育館には、多い時で1千人くらい来場したそうです。

「創立70年を迎えると同時に、それぞれの団体に加入している人たちも歳を重ねています。その反面、伝統や文化を引き継ぐ若い人たちが加入してこない現状があります」と大きな課題にも直面している山部文化協会。島会長は「時代の変化とともに、若い人たちが挑戦してみたいというものがないことや、団体ではなく個人で活動する人が増えてきている」と感じています。

「これから10年後、20年後を見据えて、企画できる人やリーダー的な人材を育てていく必要がある」と話す島会長。「同じ趣味などで数人が集まれば、何かができたり生まれたりするので、若い人たちの考え方も取り入れながら、新しいサークルづくりにも挑戦していきたい」と新しい風を取り入れながら、これからも協会の歴史を刻んでいきます。